

諏訪の景気動向

2022年8月

(2022年7月末D・I調査)



白樺湖と蓼科山(茅野市)

《2022年8月25日》

諏訪信用金庫

長野県岡谷市郷田二丁目1番8号

電話 0266-23-4567(代) FAX 0266-24-4055

諏訪地方の景気動向（2022年7月調査）

「2022年7月アンケート調査および企業訪問ヒアリング調査からまとめた諏訪地方の景況」

【概況】 諏訪地方 177 社のご協力で行った 2022 年 7 月の「景気動向調査 (DI 調査)」は、回答全社の「3 ヶ月前」と比べた業況判断 DI が $\Delta 8.0$ となった。前回調査時 (2022 年 4 月末、以下同) の 10.6 から、18.6 ポイント悪化した。「3 ヶ月前」と比べた製造業の業況判断 DI は $\Delta 8.5$ で、前回の 11.8 から悪化した。また、非製造業 (商業、観光・サービス業、建設業) の同 DI も $\Delta 6.8$ で、前回の 8.8 から悪化し、マイナス水準となった。回答全社の前年同期比も $\Delta 1.1$ で前回の 11.8 から悪化した。「3 ヶ月後」の業況予想 DI は、製造業が $\Delta 5.9$ で前回と同値で、非製造業は $\Delta 11.8$ (前回 3.0) と悪化し、回答全社では $\Delta 7.9$ (前回 $\Delta 2.3$) と悪化幅が広がった。

前回は製造業、非製造業ともプラス水準で、人流が活発化した 6 月には明るい兆しも見え、ようやく長引くコロナ禍が収束するかと期待されたが、これまでで最も強い感染力で広がった新型コロナウイルス第 7 波などの影響で、再びマイナス水準となった。コロナ禍に加え、ウクライナ情勢、日米金利差による円安、原油や電力高、原材料調達難、物価上昇、サプライチェーン混乱など、自助努力で解決しにくい収益圧迫要因があり、諏訪地方の企業は利益確保に苦慮する状態が続いている。なお、7 月は安倍晋三元首相が銃弾に倒れる事件も起きた。

製造業は、「3 ヶ月前」と比べた業況は、好転した企業が前回の 24.5% から 16.9% へ減少し、悪化した企業が前回の 12.7% から 25.4% へ増加したことで、前回 3 期ぶりにプラス水準となった業況判断 DI は再びマイナス水準となった。受注状況 DI は、前回の 6.9 から $\Delta 11.9$ へ悪化した。また、収益性 DI は、前回の $\Delta 8.9$ から $\Delta 19.5$ へ悪化幅が広がり、総体的に回復傾向を示した前回から暗転した。前年同期比では、受注状況 DI が前回の 18.6 から $\Delta 3.4$ へ悪化し、業況判断 DI も 15.7 から $\Delta 3.4$ へ悪化した。原材料の不足や高騰に加え、エネルギー価格の上昇が収益を圧迫する状況が続いた。「3 ヶ月後」の業況予想 DI は、横這いで推移すると見る企業が多く、前回の $\Delta 5.9$ と同値だった。

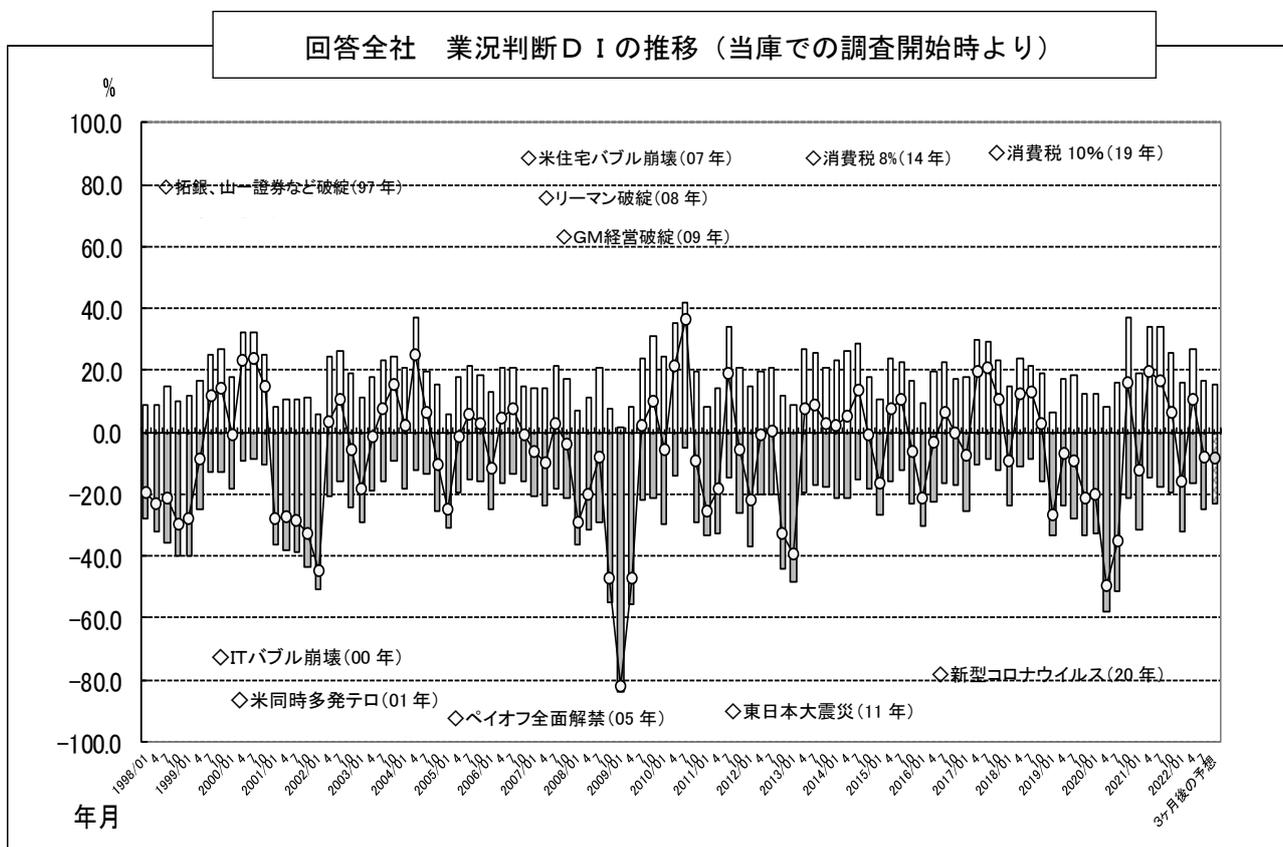
商業は爆発的に広がった新型コロナウイルス第 7 波の影響を受けた。「3 ヶ月前」と比べ、来店客数 DI は前回の $\Delta 6.2$ から $\Delta 13.3$ へ悪化し、業況判断 DI も前回の 15.6 から $\Delta 23.3$ へ急速に悪化した。関東甲信がこれまでで最も早く梅雨明けして猛暑となり、暑さ関連の商品が好調な動きを見せ、7 月上旬までは、来店客数や売上などに回復の兆しが見られた。しかし、第 7 波の拡大で急激に落ち込んだ。「前年同期比」でも業況判断 DI が、前回の 3.1 から $\Delta 10.0$ 、売上 DI は前回の 15.6 から $\Delta 10.0$ と悪化した。「3 ヶ月後」の業況予想 DI は、好転が 20.0%、悪化が 36.7% の $\Delta 16.7$ で、前回の $\Delta 6.2$ より悪化幅が広がった。コロナ禍に加え、食品や日用品など身近な商品の価格が上昇し、消費マインドの低下が懸念されている。

観光・サービス業は、業況判断 DI は「3 ヶ月前」と比べて 22.2 と、前回の 30.8 から悪化した。トップシーズンとなる季節要因もあって、プラス水準を保った。前回 46.1 だった宿泊客数 DI も 44.5 とほぼ同様に推移した。これまで感染の波の度に観光業は大きな影響を受けたため、第 7 波の打撃が懸念されたが、今回は行動制限がなかったことで、キャンセルを新規予約が補う形となった。各種割引施策の効果も見られた。また、前年同期比では、宿泊人数 DI は 77.8 で、前回の 61.5 から改善し、業況判断 DI は前回の 53.8 から 66.7 へ改善した。「3 ヶ月後」

の業況判断予想DIは、前回の46.2から△11.1、宿泊客数DIは前回の53.8から22.2と悪化した。こうした中で、茅野市と立科町のレイクリゾート構想が発表され、新たな動きが生まれた。

建設業は、「3ヵ月前」と比べた業況判断DIは5.0で、前回の△13.0から改善した。「3ヵ月後」の業況予想DIも△5.0で、前回の△8.7からやや改善した。諏訪地方の2022年6月の新設住宅着工戸数は61戸で、前年同月比20戸減少(△24.7%)した。4～6月の累計着工戸数は230戸で、前年同月比5戸増加(2.2%)した。2022年7月の市町村からの受注工事は合計92件846百万円で、前年同月比で件数は2件減少し、契約金額は28百万円減少(△3.3%)した。2022年7月に地元業者が受注した国県関係の公共工事は14件1,378百万円で、前年同期比で件数は4件減少したが、契約金額は677百万円増加(96.6%)した。建設資材や燃料費の高騰で原価率が上昇している企業が多い。

雇用状況は、2022年6月の諏訪地方の有効求人倍率が、前年同月を0.32ポイント上回り、前月を0.08ポイント上回る1.55倍だった。前年同月は14ヵ月連続で上回った。6月の長野県内は1.61倍。全国は1.27倍で、完全失業率は2.6%だった。諏訪地方は、新規求人数(全数)が1,764人で前年同月比128人増加(7.8%)し、3ヵ月連続で前年同月を上回った。新規求職者数は665人で前年同月比50人減少(△7.0%)し、7ヵ月連続で前年同月を下回った。産業別の前年同月比の新規求人数は、建設業が10.9%、製造業が21.7%、運輸・郵便業が100.0%、飲食店・宿泊業5.9%と増加したが、卸売業・小売業△8.2%、医療・福祉業△16.8%と減少した。1件10人以上の人員整理は1件だった。



新型コロナウイルス感染拡大の諏訪地方への影響

長野県内では6月以降、新規感染者数の減少傾向が続いていたが、7月上旬から再び増加に転じた。7月10日に累計8万人、22日に9万人を突破した後、わずか6日間で1万人増加し、28日に10万人に到達。全県に医療特別警報が発出され、感染警戒レベルは「5」に引き上げられた。世界保健機関の集計で18～24日の週間感染者数は、日本が世界最多となる勢いだった。ただ、第7波は重症化しにくい特性があることから、過去のレベル「5」で実施した行動制限などの強い措置は取られなかった。このため、業種によって影響に違いが表れた。飲食店や商業施設では感染拡大とともに来店客数が減少したが、人流が止まらなかったことで宿泊施設ではキャンセルと予約が入れ替わりにあり、総体的に大きなダメージには至らなかった。製造業はコロナの影響がないとする企業が増えつつあるが、取引先や家族など身近な感染者の増加を心配する声があった。

産業別業況表

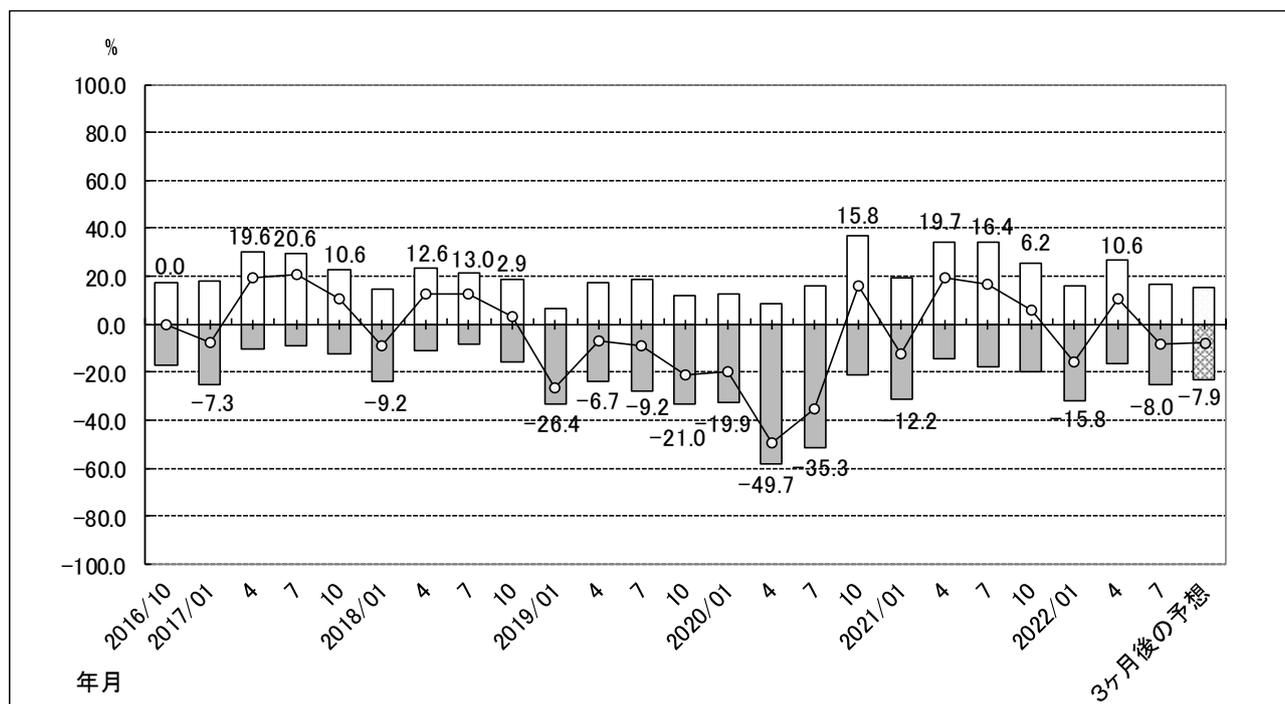
(企業数・%) 表-1

	3か月前と比べて					前年同期と比べて					3か月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
全体	177	16.9	58.2	24.9	-8.0	177	27.1	44.6	28.2	-1.1	177	15.3	61.6	23.2	-7.9
製造業	118	16.9	57.6	25.4	-8.5	118	27.1	42.4	30.5	-3.4	118	16.1	61.9	22.0	-5.9
非製造業	59	16.9	59.3	23.7	-6.8	59	27.1	49.2	23.7	3.4	59	13.6	61.0	25.4	-11.8
商業	30	16.7	43.3	40.0	-23.3	30	23.3	43.3	33.3	-10.0	30	20.0	43.3	36.7	-16.7
建設業	20	15.0	75.0	10.0	5.0	20	15.0	65.0	20.0	-5.0	20	5.0	85.0	10.0	-5.0
観光・サービス	9	22.2	77.8	0.0	22.2	9	66.7	33.3	0.0	66.7	9	11.1	66.7	22.2	-11.1

自社業況判断DIの推移

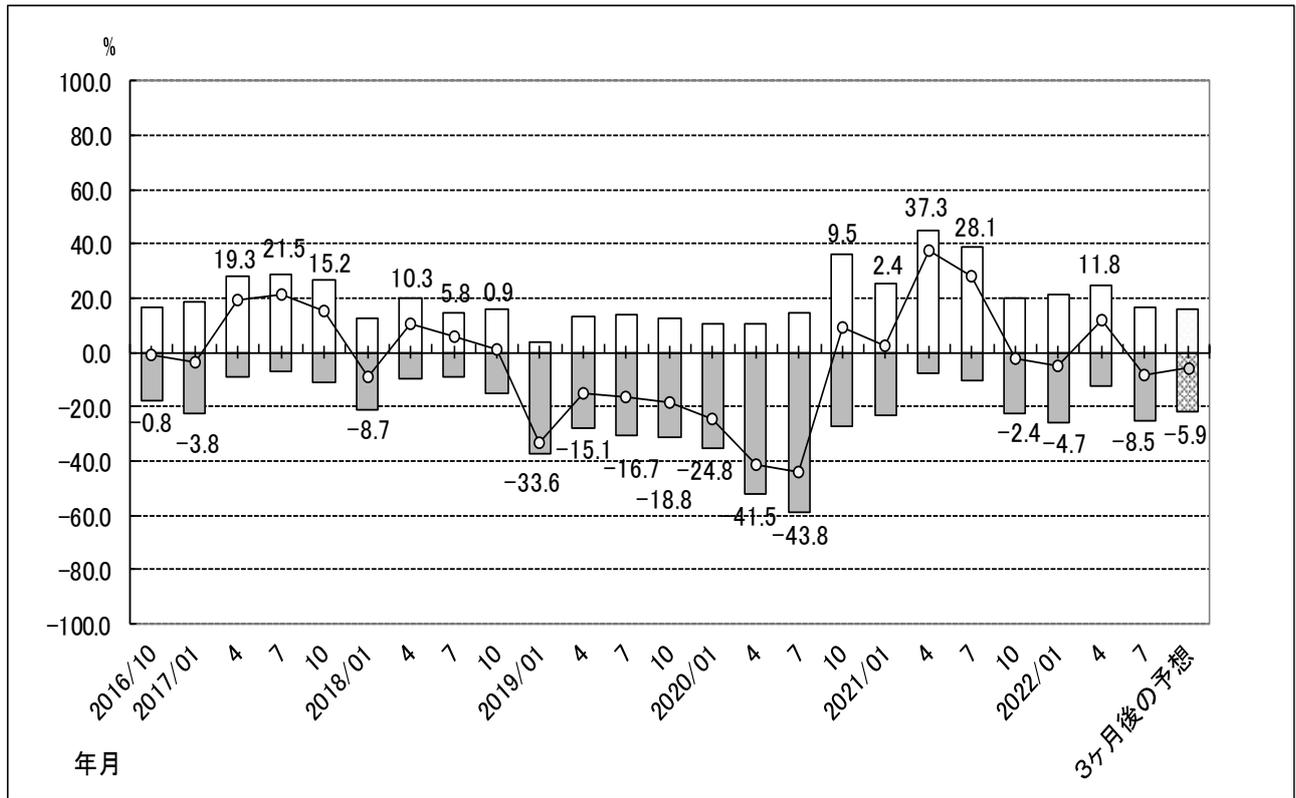
回答全社:「3か月前」と比べて業況判断DIの推移

グラフ-1



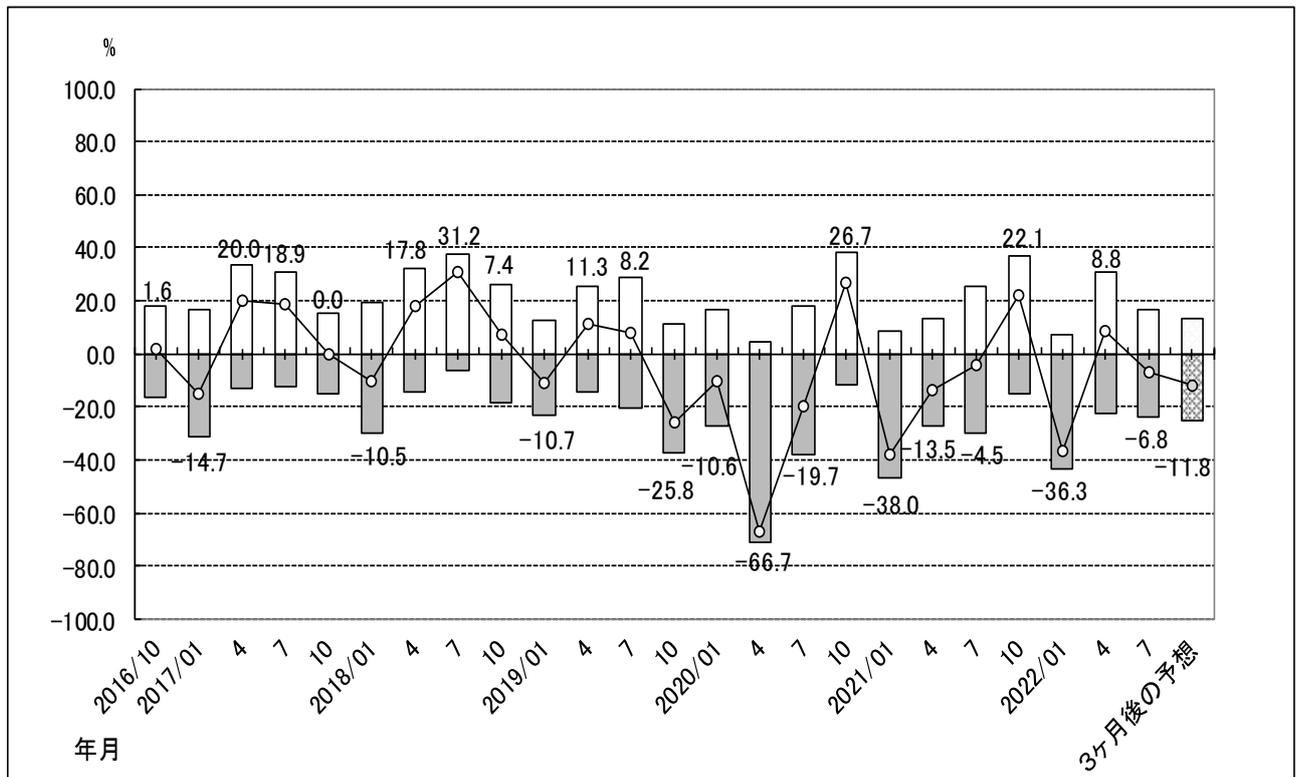
●製造業：「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフー2



●非製造業：「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフー3



産業別景気動向

1. 製造業

業況判断DIは「3ヵ月前」と比べ△8.5で、前回の11.8から悪化した。「前年同期比」も△3.4で、前回の15.7から悪化した。「3ヵ月後」の予想は△5.9で、前回と同値だった。

収益性DIは、「3ヵ月前比」で△19.5と前回の△8.9から10.6ポイント悪化した。「前年同期比」は前回の△3.0から△21.2へ悪化し、「3ヵ月後」の予想も△13.6で、前回の△2.0から悪化した。

業種別(主要5業種)の業況判断DIは「3ヵ月前」と比べて、「電気機械」は17.4(前回11.1)と改善したが、「金属製品」は△18.1(同9.1)、「一般機械」が△11.1(同9.1)、「輸送用機械」は0.0(同50.0)、「精密機械」は△44.4(同△37.5)と悪化した。

「前年同期比」では、「電気機械」は39.2(前回38.8)と改善したが、「金属製品」が△15.2(同9.1)、「輸送用機械」は8.3(同30.0)、「一般機械」は△14.8(同18.2)、「精密機械」が△55.6(同0.0)と悪化した。

「3ヵ月後」の予想DIは、精密機械が△22.2(前回△25.0)、「一般機械」は△7.4(同△9.1)と改善したが、「電気機械」4.4(同5.6)、「輸送用機械」△16.7(同0.0)と悪化した。「金属製品」は△12.1で前回と同値だった。

原材料など各種値上げの影響は、3ヵ月前に比べて40.7%が多大、57.6%が多少あるとし、ほとんどの企業が影響を感じている。また、原材料の確保状況は0.8%が過剰、64.4%が適正、34.7%が不足としている。

省力化や機械化のニーズは多く、先々までの受注を確保している企業もある。ただ、部品不足で生産が上がらない状況も続いている。部品によって調達状況がアンバランスなことから、納期が見通せない部品がある一方で、在庫過多になる部品もあり、生産調整のため足元の受注が減少した企業もある。また、調達が可能になり、生産量が上がってくるにつれて、人材不足が顕在化している企業もある。製造業では、労働力の確保を経営上の課題とする企業が多い状況が続いている。

製造業 業種別・規模別の自社業況表

表-2

	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想					
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	
製造業	118	16.9	57.6	25.4	-8.5	118	27.1	42.4	30.5	-3.4	118	16.1	61.9	22.0	-5.9	
規模	1~29人	63	15.9	58.7	25.4	-9.5	63	22.2	47.6	30.2	-8.0	63	15.9	66.7	17.5	-1.6
	30~99人	40	22.5	50.0	27.5	-5.0	40	32.5	32.5	35.0	-2.5	40	15.0	57.5	27.5	-12.5
	100人~	15	6.7	73.3	20.0	-13.3	15	33.3	46.7	20.0	13.3	15	20.0	53.3	26.7	-6.7
分類	金属製品製造業	33	15.2	51.5	33.3	-18.1	33	21.2	42.4	36.4	-15.2	33	12.1	63.6	24.2	-12.1
	一般機械器具製造業	27	14.8	59.3	25.9	-11.1	27	18.5	48.1	33.3	-14.8	27	14.8	63.0	22.2	-7.4
	電気機械器具製造業	23	21.7	73.9	4.3	17.4	23	52.2	34.8	13.0	39.2	23	17.4	69.6	13.0	4.4
	輸送用機械器具製造業	12	16.7	66.7	16.7	0.0	12	33.3	41.7	25.0	8.3	12	8.3	66.7	25.0	-16.7
	精密機械器具製造業	9	0.0	55.6	44.4	-44.4	9	11.1	22.2	66.7	-55.6	9	0.0	77.8	22.2	-22.2

① 諏訪地方製造品出荷額の 70%を占める中分類 5 業種の業況

● 金属製品(プレス、メッキ、熱処理など)

業況判断DIは「3 ヶ月前」と比べ $\Delta 18.1$ で、前回調査時の 9.1 から悪化した。「前年同期比」も $\Delta 15.2$ で前回の 9.1 から悪化した。「3 ヶ月後」の予想は前回の $\Delta 12.1$ と同値だった。自動車関連部品の動きが悪い上、燃料や光熱費高騰の影響が大きく、「省力化や効率化を図っても追いつかない水準になっている」とする企業がある。

● 一般機械(工作機械、専用機械、省力機械、検査機械など)

業況判断DIは「3 ヶ月前」と比べて $\Delta 11.1$ で、前回の 9.1 から悪化し、「前年同期比」も $\Delta 14.8$ で、前回の 18.2 から大幅に悪化した。「3 ヶ月後」の予想は $\Delta 7.4$ で、前回の $\Delta 9.1$ からわずかに改善したが、マイナス水準となっている。専用機、工作機械は安定推移しているが、部材の供給不足や高騰は続き、納品遅れも続いている。また、材料や燃料の高騰もあり、原価率が上昇している。完成メーカーが在庫過多の状況となり、当面は低調な推移を見込む企業もある。

● 電気機械(家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、デジタルカメラなど)

業況判断DIは「3 ヶ月前」と比べて 17.4 で、前回の 11.1 から改善した。「前年同期比」は 39.2 で前回の 38.8 から改善した。「3 ヶ月後」の予想は 4.4 で、前回の 5.6 からやや悪化した。プリント基板は好調に推移しているが、メーカーの在庫調整で一服感もある。NC制御装置関連は、生産量が上がっているが、部品や資材の調達難が続き、恒常的な納期遅れがある。

● 輸送用機械(自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など)

業況判断DIは「3 ヶ月前」と比べて 0.0 で、前回の 50.0 から悪化し、「前年同期比」も 8.3 で、前回の 30.0 から悪化した。「3 ヶ月後」の予想は $\Delta 16.7$ で、前回の 0.0 から悪化した。自動車関連は大手メーカーの生産計画に連動した受注状況が続いている。半導体などの部品不足の長期化やコロナ禍による生産ラインの一時稼働停止などで生産調整が行われ、下請け企業への影響が続いている。ただ、年間計画の水準には達していないが、やや回復の兆しもある。建機、重機、農機部品は安定している。

● 精密機械(時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など)

業況判断DIは「3 ヶ月前」と比べて $\Delta 44.4$ で、前回の $\Delta 37.5$ から悪化幅が広がった。「前年同期比」も $\Delta 55.6$ で前回の 0.0 から悪化した。「3 ヶ月後」の予想は $\Delta 22.2$ で前回の $\Delta 25.5$ からやや改善した。主要取引先で部材不足による生産調整があり、受注が減少している企業がある。中国で一部レンズが大量生産された影響で、国内で材料不足が生じている。

② 規模別業況

業況判断DIは、「3 ヶ月前」と比べて「1~29 人」規模は前回の 1.8 から $\Delta 9.5$ へ悪化し、「30~99 人」規模は前回の 20.6 から $\Delta 5.0$ へ悪化した。「100 人以上」規模は前回の 28.6 から $\Delta 13.3$ へ悪化した。「前年同

期比」は「1～29人」規模が前回の3.7から△8.0へ悪化し、「30～99人」規模は前回の29.4から△2.5へ悪化した。「100人以上」規模はプラス水準ながら前回の28.6から13.3へ悪化した。「3ヵ月後」の予想は、「1～29人」規模が前回の△16.7から△1.6へ改善したが、「30～99人」規模は△12.5で前回の3.0から悪化し、「100人以上」規模も前回の14.3から△6.7へ悪化した。

③受注状況DI(規模別、業種別)

製造業全社の「3ヵ月前」と比べて受注状況DIは「増加」企業19.5%、「減少」企業31.4%で△11.9と、前回調査時の6.9から悪化した。「前年同期比」は△3.4で前回の18.6から悪化し、「3ヵ月後」の予想も前回の△1.0から△10.2へ悪化幅が広がった。

規模別の受注状況DIは「3ヵ月前」と比べて、「1～29人企業」は△11.2で前回の0.0から悪化し、「30～99人企業」も△12.5で前回の5.9から悪化した。「100人以上企業」は△13.3で前回の35.7から悪化した。「前年同期比」は、「1～29人企業」が0.0で前回の9.3から悪化し、「30～99人企業」は△5.0で前回の32.4から悪化した。「100人以上企業」は△13.3で前回の21.4から悪化した。「3ヵ月後」の予想は「1～29人企業」が△3.2で前回の0.0から悪化し、「30～99人企業」も△15.0で前回の△3.0から悪化した。「100人以上企業」は△26.7で前回の0.0から悪化した。

業種別(主要5業種)の「3ヵ月前比」は、「精密機械」が△44.4(前回△50.0)とやや改善したが、「金属製品」が△24.2(同△3.1)、「一般機械」は△18.5(同△4.5)、「電気機械」は13.1(同27.7)、「輸送用機械」が△8.3(同40.0)へ悪化した。「前年同期比」では、「金属製品」が△21.2(前回9.1)、「一般機械」は△22.2(同18.2)、「電気機械」は43.5(同55.6)、「輸送用機械」は8.3(同20.0)、「精密機械」は△22.2(同0.0)へ悪化した。

「3ヵ月後」の予想は、「金属製品」が△15.1(前回△6.0)、「一般機械」は△14.8(同△9.1)、「電気機械」が△8.7(同5.5)、「輸送用機械」は△16.7(同10.0)、「精密機械」は△33.3(同△25.0)へ悪化した。

業種別・規模別受注状況表

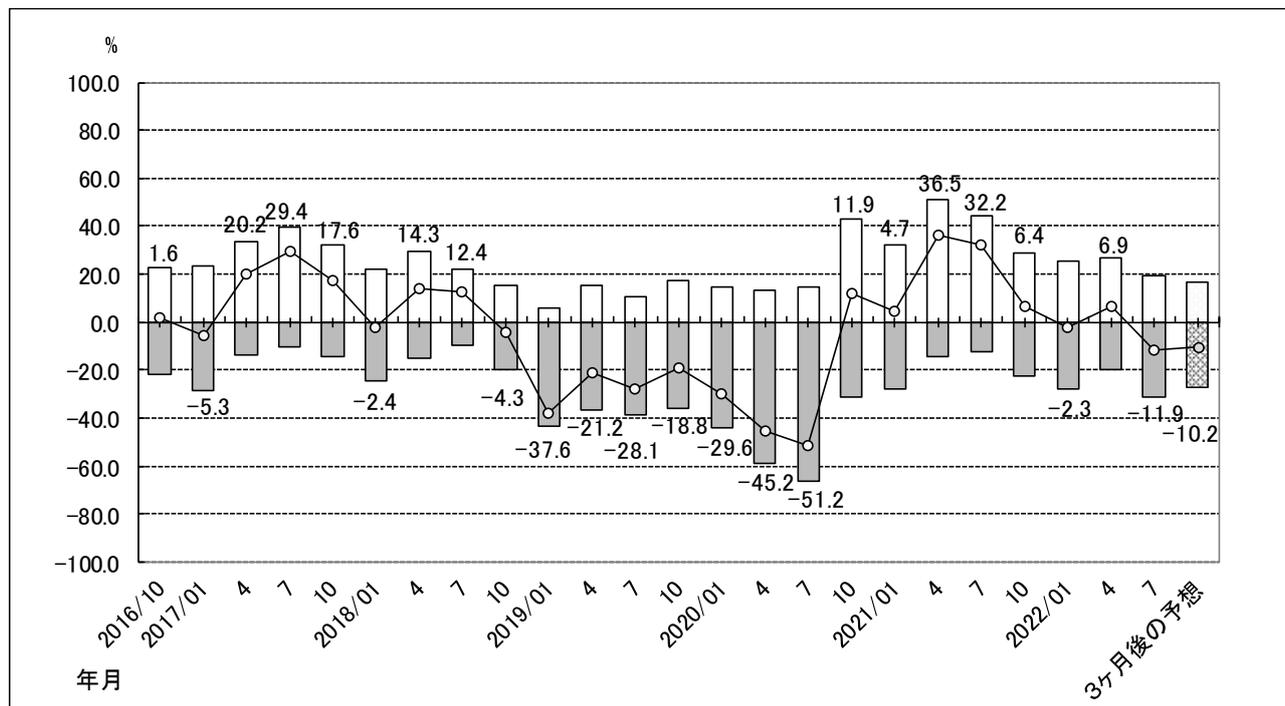
表-3

	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想					
	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	
製造業	118	19.5	49.2	31.4	-11.9	118	32.2	32.2	35.6	-3.4	118	16.9	55.9	27.1	-10.2	
規模	1～29人	63	19.0	50.8	30.2	-11.2	63	31.7	36.5	31.7	0.0	63	19.0	58.7	22.2	-3.2
	30～99人	40	20.0	47.5	32.5	-12.5	40	35.0	25.0	40.0	-5.0	40	15.0	55.0	30.0	-15.0
	100人～	15	20.0	46.7	33.3	-13.3	15	26.7	33.3	40.0	-13.3	15	13.3	46.7	40.0	-26.7
分類	金属製品製造業	33	15.2	45.5	39.4	-24.2	33	21.2	36.4	42.4	-21.2	33	9.1	66.7	24.2	-15.1
	一般機械器具製造業	27	14.8	51.9	33.3	-18.5	27	22.2	33.3	44.4	-22.2	27	18.5	48.1	33.3	-14.8
	電気機械器具製造業	23	26.1	60.9	13.0	13.1	23	56.5	30.4	13.0	43.5	23	21.7	47.8	30.4	-8.7
	輸送用機械器具製造業	12	16.7	58.3	25.0	-8.3	12	33.3	41.7	25.0	8.3	12	8.3	66.7	25.0	-16.7
	精密機械器具製造業	9	0.0	55.6	44.4	-44.4	9	22.2	33.3	44.4	-22.2	9	0.0	66.7	33.3	-33.3

製造業の受注状況DIの推移

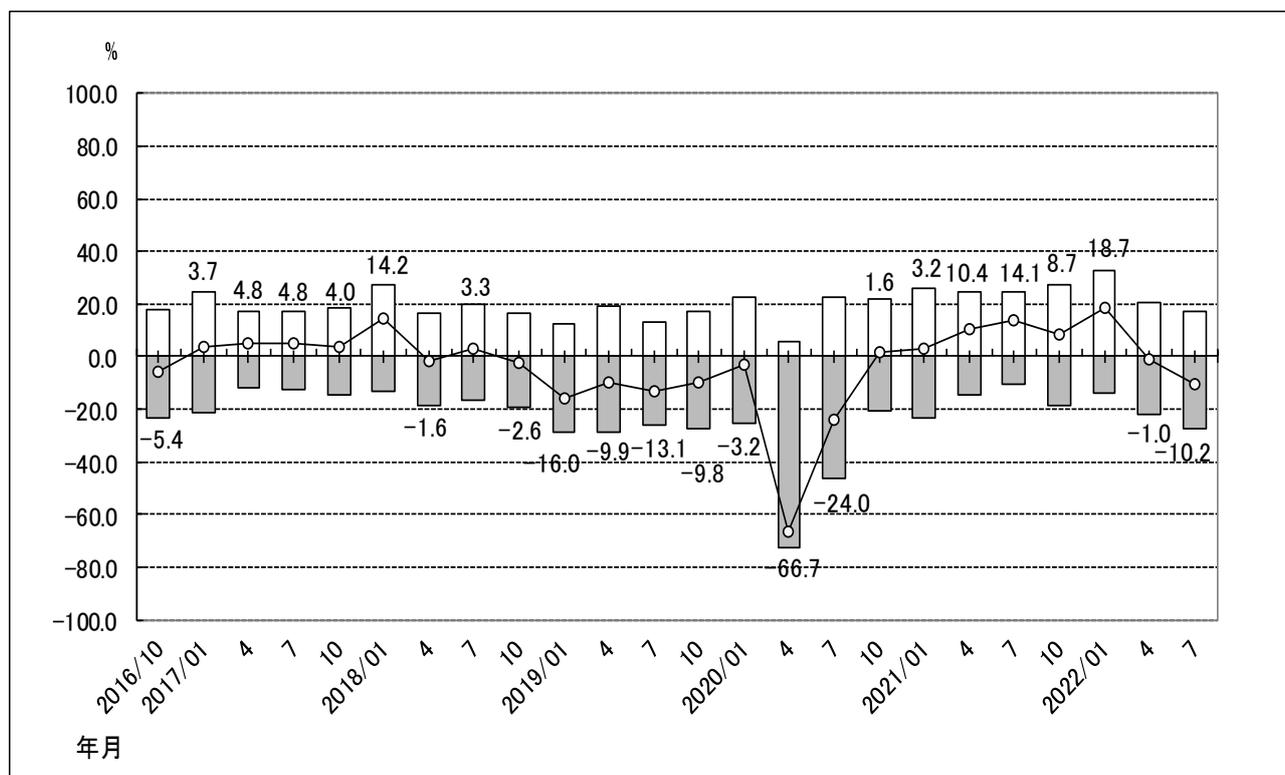
●製造業全社:「3ヵ月前」と比べた受注状況DIの推移

グラフー4



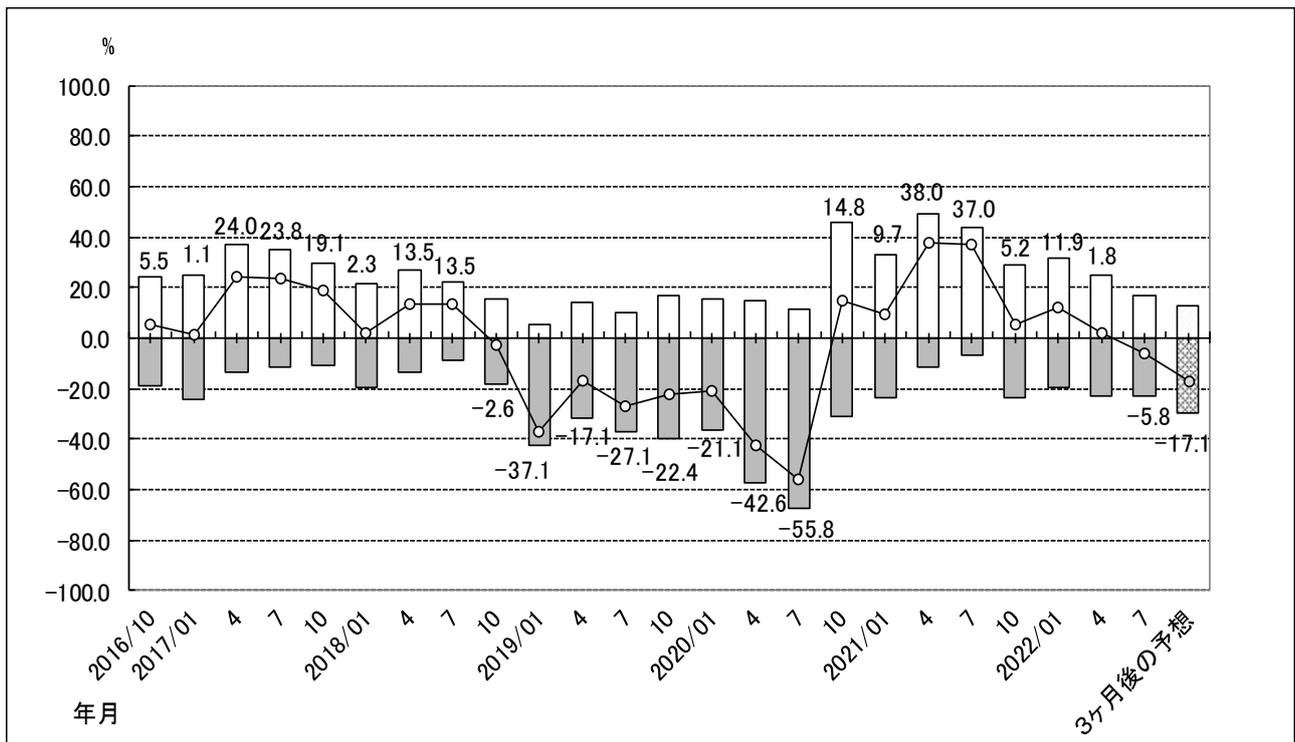
●製造業全社:「3ヵ月後」の受注予想DIの推移

グラフー5



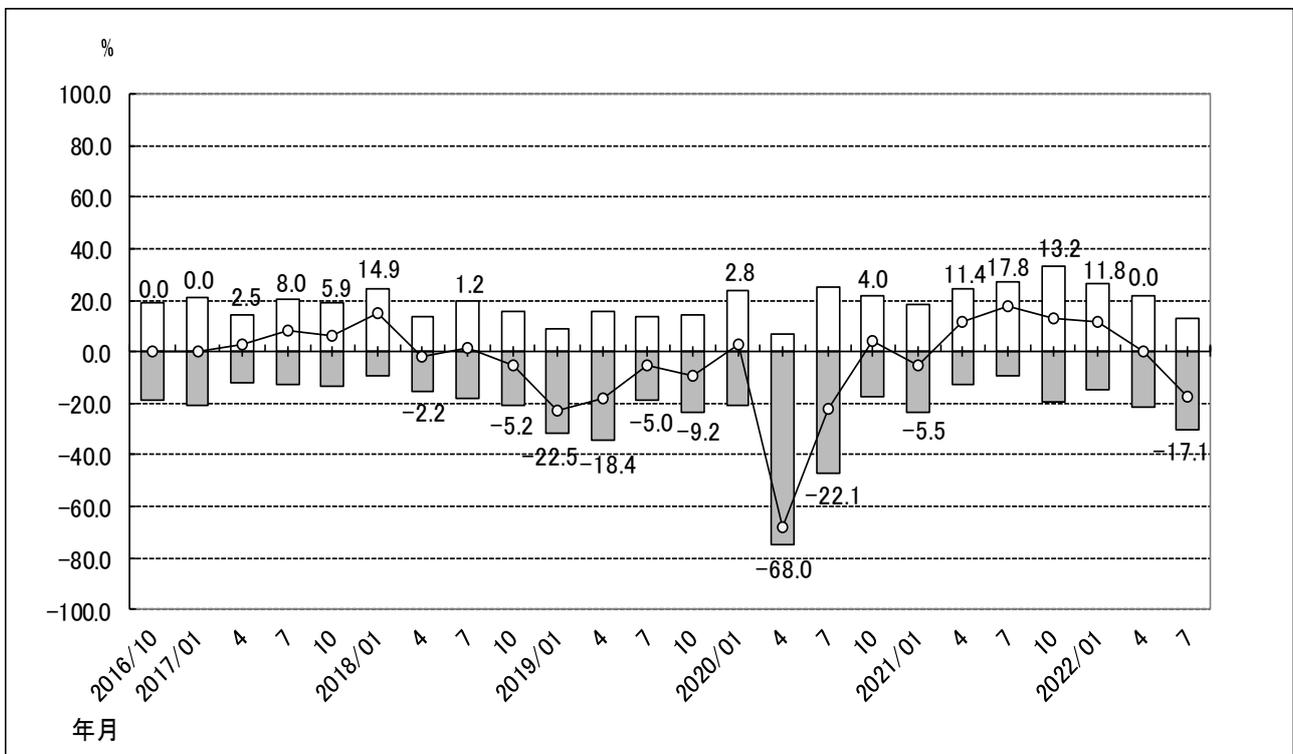
●製造業 主要5業種:「3ヵ月前」と比べた受注状況DIの推移

グラフー6



●製造業 主要5業種:「3ヵ月後」の受注予想DIの推移

グラフー7



2. 商業・観光サービス業

① 商業

原材料価格の高騰などを背景に、7月から食品の値上げが本格化した。さまざまな品目の値上げに伴い、表面上の客単価は上昇しているが、購入点数が減少していると見る企業もあり、物価の上昇による消費意識の低下が懸念されている。

- スーパー 猛暑の影響で飲料、アイスなどの冷蔵、冷凍製品の売上は好調だったが、通常の食材や日用品、加工食品、総菜部門は比較的低調だった。
- 自動車 諏訪地方の7月の車庫証明件数(軽自動車除く)は786件で、前年同月比51件減少(△6.1%)した。消費者ニーズは旺盛だが、納車が長期化する状況が続いている。
- 催事場 6月に感染状況が落ち着き、宴会を伴うイベントが復活し、2年前から延期していた行事が再開されたが、第7波で一気に下降し低迷状態となった。
- 家電 7月は真夏日や猛暑日が多く、エアコンや扇風機などの空調関連機器が好調な売れ行きだった。冷蔵庫や冷凍庫、調理家電の売上も堅調だった。
- 飲食店 第7波感染急拡大後は、来店客が激減した。特に大人数の宴会予約は、軒並みキャンセルとなった。

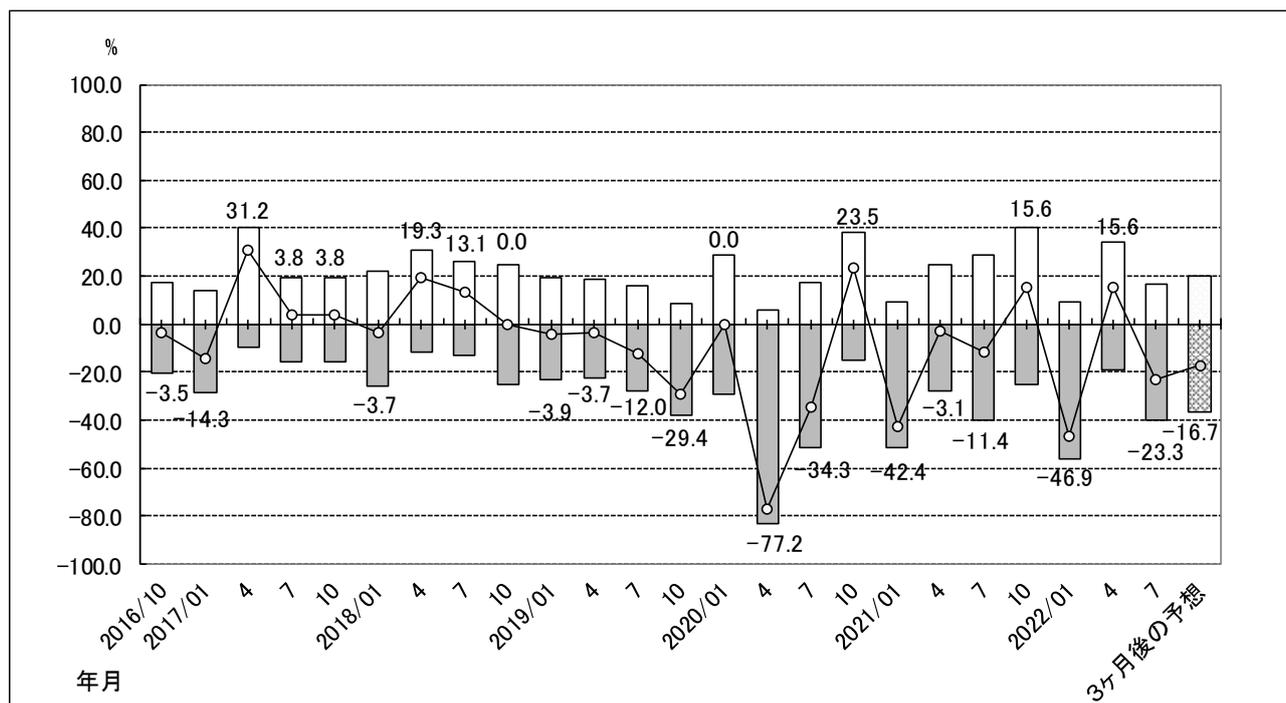
業況、客単価、来店客数

表-4

	3か月前と比べて					前年同期と比べて					3か月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	30	16.7	43.3	40.0	-23.3	30	23.3	43.3	33.3	-10.0	30	20.0	43.3	36.7	-16.7
客単価	30	36.7	43.3	20.0	16.7	30	30.0	53.3	16.7	13.3	30	23.3	63.3	13.3	10.0
来店客数	30	26.7	33.3	40.0	-13.3	30	26.7	40.0	33.3	-6.6	30	10.0	60.0	30.0	-20.0

●商業全社:「3か月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-8



② 観光・サービス業

前年7月はコロナ感染者数が中旬以降増加し、割引施策も同様に行われ、今年7月とほぼ同条件だったが、今年は入り込み客が増加し、修学旅行の受け入れも行われた。宿泊施設では、第7波の拡大で予約のキャンセルがあったが、新規予約もあり、落ち込みまでには至らなかった。今後、蓼科湖、白樺湖、女神湖の魅力を一体的に発信する「レイクリゾート構想」の進展が期待されている。

- 上諏訪温泉 第7波の拡大で県内客の動きは鈍くなっているものの、富裕層を中心とする首都圏域の宿泊者数は堅調に推移した。サマーナイト花火や諏訪湖祭湖上花火は予想以上の人出が確認されている。
- 下諏訪温泉 県外宿泊客のキャンセルはほとんどなかったが、8月の宴会はキャンセルが相次いだ。
- 蓼科・白樺湖 感染急拡大でキャンセルは多いが、入れ替わりの予約があり、3連休以降、宿泊施設は好調だった。コロナ以前を上回る売上だった施設もある。団体ツアーの回復は遅れているが、全体の集客は回復傾向となっている。
- 諏訪大社 上社・下社合わせた7月の参拝者数は約8万2千人で、前年同月比約3万8千人増加(87.6%)した。

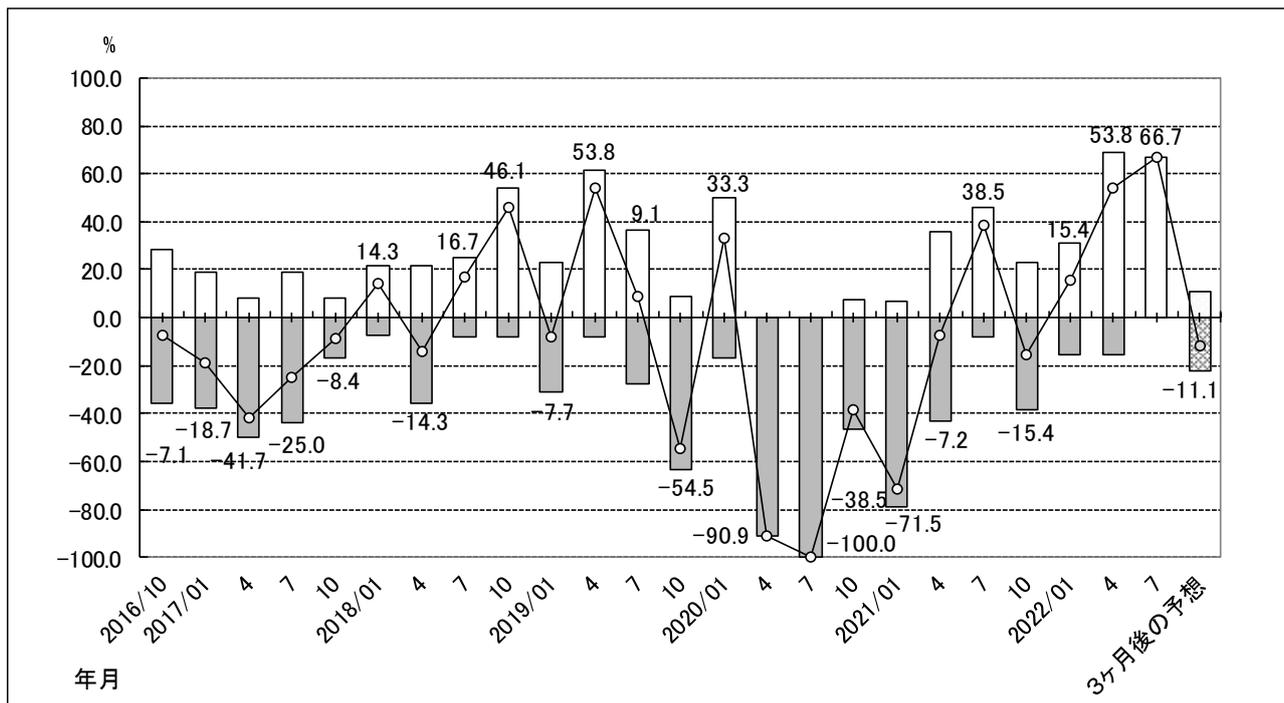
業況、売上、宿泊客

表-5

	3カ月前と比べて					前年同期と比べて					3カ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	9	22.2	77.8	0.0	22.2	9	66.7	33.3	0.0	66.7	9	11.1	66.7	22.2	-11.1
客単価	9	55.6	44.4	0.0	55.6	9	44.4	55.6	0.0	44.4	9	33.3	55.6	11.1	22.2
宿泊客数	9	55.6	33.3	11.1	44.5	9	77.8	22.2	0.0	77.8	9	44.4	33.3	22.2	22.2

●観光・サービス業全社:「前年同期」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-9



3.建設業

受注状況DIは「3ヵ月前」と比べ、前回の△8.7から0.0と改善し、「前年同期比」でも前回の△21.7から△10.0へ改善した。収益性DIも「3ヵ月前」と比べ、前回の△21.7から△15.0とやや改善した。資材不足とする企業は20.0%で前回の43.5%から改善している。「3ヵ月後」も20.0%の企業(前回52.2%)が不足するとみている。生コンやアスファルト同様、鋼材単価の高騰に苦しむ下請企業が増えている。

●建築工事

6月の各市町村の新設住宅着工戸数は岡谷市6戸、諏訪市16戸、茅野市26戸、諏訪郡13戸の合計61戸だった。長野県全体の6月の新設住宅着工戸数は1,066戸で、前年同月比17.4%減少した。前年同期比で持ち家が4ヵ月連続の減少で、貸家は3ヵ月ぶりの減少となった。

●公共工事

2022年4月～7月に地元業者が受注した国県関係の公共工事累計は、36件2,990百万円だった。前年同期比で件数は7件、契約金額は141百万円減少(△4.5%)した。市町村からの受注工事は、建築工事4件114百万円、土木・水道工事62件539百万円、その他工事26件193百万円だった。

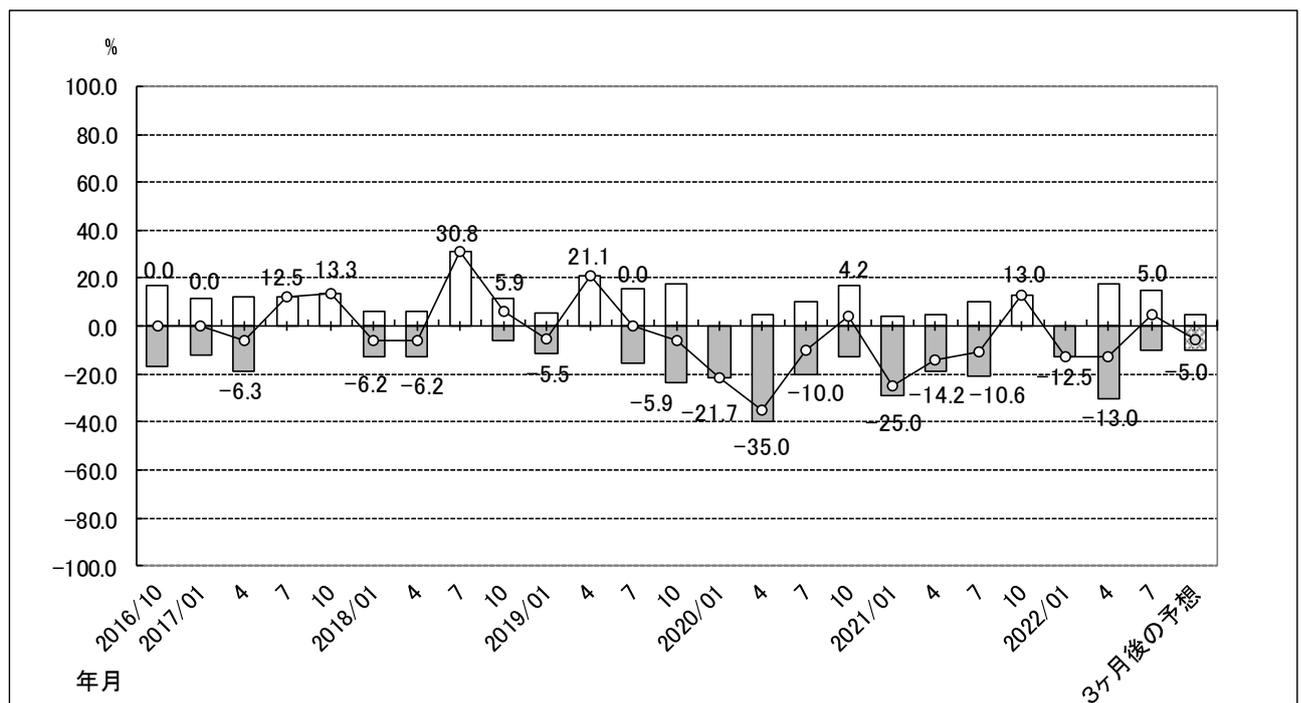
業況、受注状況、外注発注量

表-6

	3ヵ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヵ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	20	15.0	75.0	10.0	5.0	20	15.0	65.0	20.0	-5.0	20	5.0	85.0	10.0	-5.0
受注状況	20	20.0	60.0	20.0	0.0	20	15.0	60.0	25.0	-10.0	20	10.0	80.0	10.0	0.0
外注発注量	20	15.0	55.0	30.0	-15.0	20	20.0	45.0	35.0	-15.0	20	25.0	65.0	10.0	15.0

●建設業全社:「3ヵ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-10

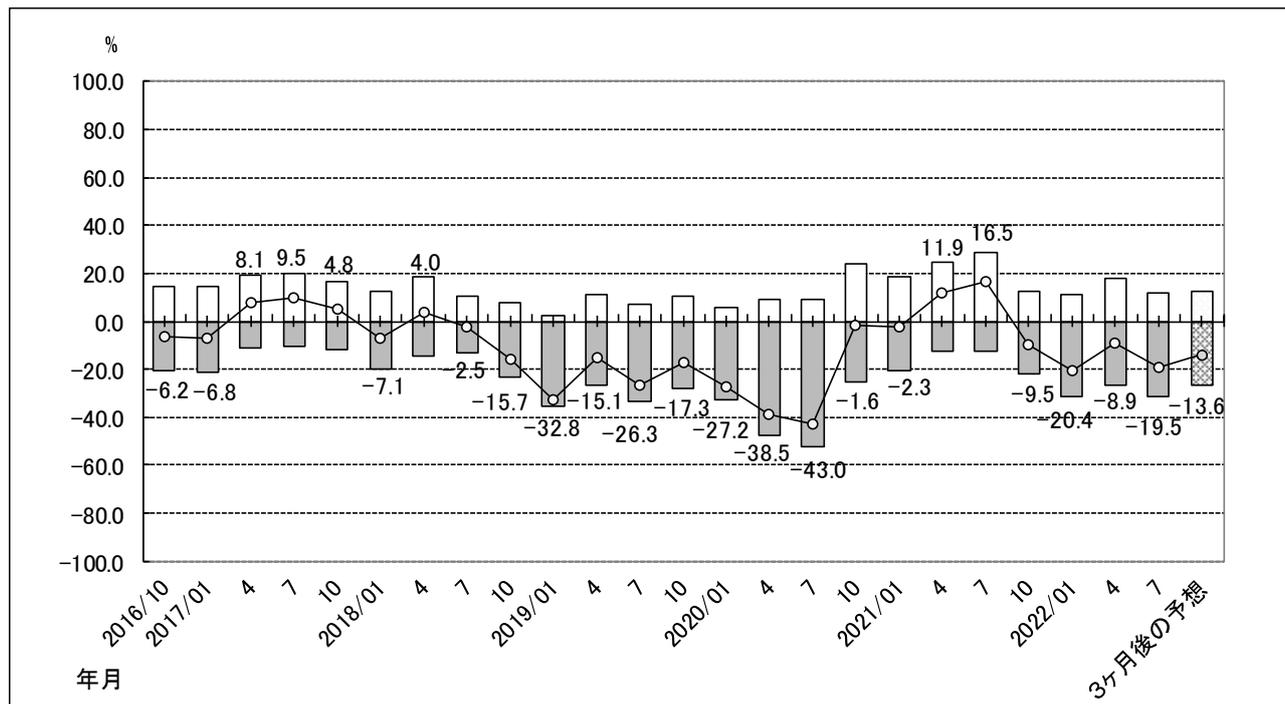


4.収益性状況

回答全社の「3ヵ月前」と比べた収益性は「好転」企業 11.3%、「悪化」企業 30.5%で、同DIは△19.2と前回調査時の△7.1から悪化した。製造業は△19.5で前回の△8.9から悪化し、非製造業も△18.6で前回の△4.4から悪化した。回答全社の「前年同期比」は△17.0で、前回の△4.2から悪化した。「3ヵ月後」の予想DIは、製造業が△13.6で前回の△2.0から悪化し、非製造業も△18.6で前回の△13.3から悪化した。回答全社では△15.2となり、前回の△6.5から悪化した。

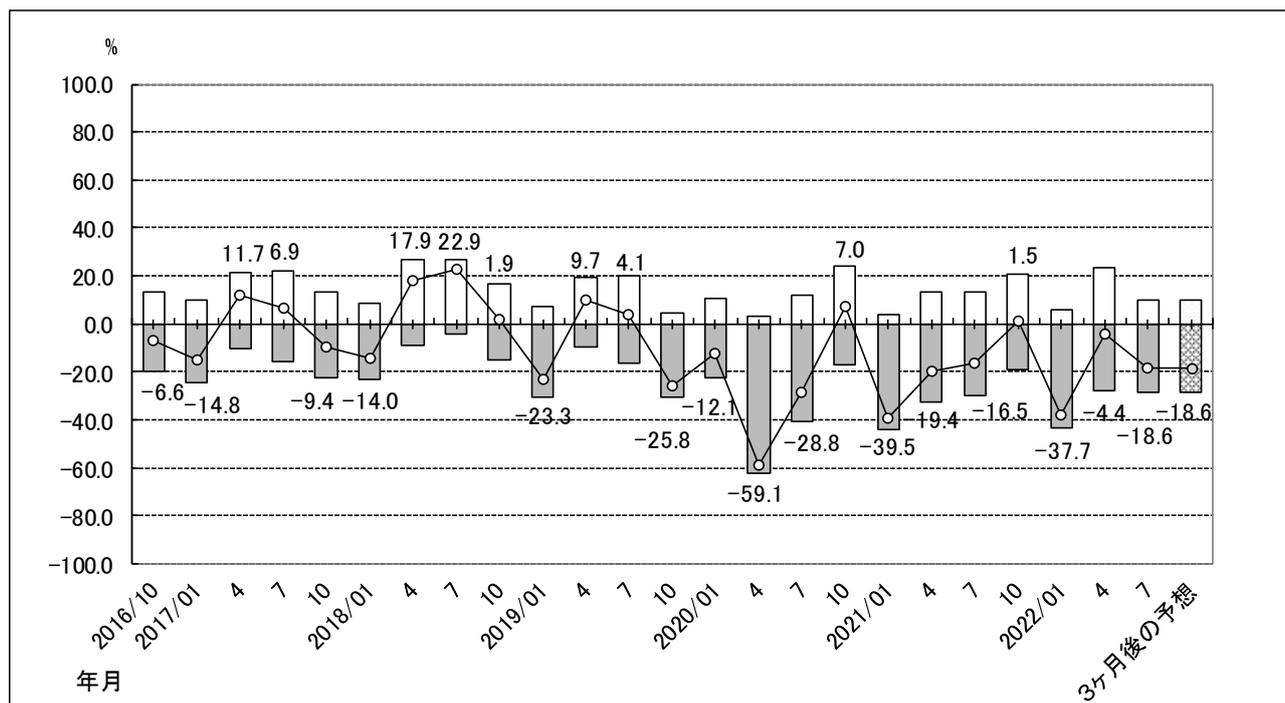
●製造業：3ヵ月前と比べた収益性DI

グラフー11



●非製造業：3ヵ月前と比べた収益性DI

グラフー12



5.経営上の課題(3つまでの複数回答)

経営上の課題として①製造業は労働力確保と売上減少②商業は売上減少と労働力確保③建設業は労働力確保と売上減少④観光・サービス業は労働力確保と人件費だった。

経営上の課題	合計	製造業	商業	建設業	観光・サービス業
売上減少	76	49	17	7	3
単価引下げ	14	9	3	2	0
競争激化	32	19	8	5	0
資金繰り	37	24	9	2	2
人件費	39	26	5	4	4
労働力確保	90	56	14	14	6

6.諏訪地方主要経済指標

主要指標		実数	前年同期比
有効求人倍率【6月】	ハローワーク諏訪	1.55倍	0.32ポイント
手形交換高【7月】 (諏訪手形交換所扱)	枚数	2,248枚	△279枚
	金額	2,739百万円	△613百万円
	うち不渡り 発生状況	枚数	0枚
	金額	0千円	0千円
車庫証明取扱件数【7月】(諏訪地方合計)		786件	△6.1%
新設住宅着工戸数【2022年4月～6月】(諏訪管内)		230戸	2.2%

7.調査概要

DI調査:業況などが「好転」と答えた企業割合から「悪化」と答えた企業割合を引いた数値。

- ① 調査期間 2022年7月。
- ② 調査内容 「2022年7月時点」の実績と、「3ヵ月前」と「前年同期」の業績比較および「3ヵ月後」の予想。
- ③ 調査方法 DI調査および約130社のヒアリング調査。
- ④ DI回答数 177企業。
- ⑤ 回答率 70.8%

DI調査状況

	製造業	商業	建設業	観光・サービス業	合計
依頼数	160	40	30	20	250
回答数	118	30	20	9	177

7月に大きく落ちた街角景気

8月15日に4-6月のGDPが発表されました。前四半期に比べて年率で2.2%（実質）のプラスでした。4-6月は、中国での上海の封鎖などがあったものの、日本では新型コロナウイルスの感染が比較的抑えられた時期ということもあり、GDPの半分強を支える個人消費が伸びました。

しかし、7月以降は心配です。オミクロン株が猛威をふるいました。第7波です。全国の感染者数も20万人を超える日が続き、私が住んでいる東京でも3万人を超える感染者が続きました。ここに来て、東京では感染者数が少し減少してきて、2万人を切る日も出てきています。全国的には、まだまだ感染者数が高いですが、第7波もそろそろピークを越えたという感じでしょう。

ただ、景気的にはオミクロン株急拡大の影響が結構出ています。表は、「街角景気」の数字です。「景気ウォッチャー調査」とも呼ばれます。この調査は、経済の最前線にいる人たちに、景況感が良くなっているか悪くなっているかを毎月、内閣府が各地で調査しているものです。たとえば、タクシードライバーさん、ホテルのフロントマン、小売店の店頭で販売している人、中小企業経営者などにも聞き取りをしています。変わったところでは、ハローワークの窓口にいる人たちにも調査しています。景気が敏感に分かりますからね。

表をよく見ていただきたいのですが、4-6月の調査では、良いか悪いかの判断基準となる50を超えていました。4-6月のGDPが伸びたのと符合していますね。ただ、7月は43.8と、前月に比べ9.1ポイントという大幅な悪化でした。7月はお分かりのように、オミクロン株が急速に拡大していった時期です。飲食などの業種が悪化しています。

これまでも、コロナウイルスのせいでこの数字が大きく悪化したことは何度かありましたが、今回、注意して見なければいけないのは、これまで大きく悪化したときは、緊急事態宣言などの政府からの措置が取られた時期でしたが、今回は、とくにそういった要請はなく、感染が急拡大したということが大きな要因となっています。

言い方を換えれば、国民が自主的に経済活動を自粛したということが言えます。会食などは、以前と比べてかなり自由に行えるようになりましたが、それでもこれだけ感染拡大が叫ばれると、大人数での懇親会などは自粛せざるを得ません。当社では、大小さまざまなセミナーを行っていますが、セミナー後の懇親会などは、残念ながらほとんどが取りやめとなっています。セミナー自体もオンライン、あるいは、リアルとオンラインのハイブリッドです。

インフレも心配

米国のインフレ率（直近で8.5%）に比べて、日本はまだ2%台ですからそれほどでもありませんが、それでも物価の上昇をひしひしと感じます。エネルギーや食品などの値上がりが目につきます。

気をつけなければいけないのは、企業物価の上昇です。企業の仕入れが大きく上がっているのです。直近で前年比8.6%です。

消費者物価上昇率は2%台前半、企業の仕入れが8%台半ばの上昇ということは、企業が利益を上乗せして商品を販売していることを考えても、十分に最終消費財に転嫁できていないことは明らかです。

海外で利益を上げられる企業ならまだしも、中小企業の多くは日本国内での活動が中心です。そういう会社の場合には、仕入れ価格の上昇分を販売価格には十分に転嫁できていないところが多いと考えられます。私のお客さまの中堅・中小企業を見ていても、十分に転嫁できていないところは少なくありません。

そうなると企業業績は落ちますから、働く人の賃上げどころではなくなるわけです。それでは、2%台とは言ってもインフレの中、購買量は減らざるを得ません。

さらには、値上がり分の多くは、資源や飼料、食料品ですから、海外に資金が流出しているということになります。

米国では濃厚接触者という概念がなくなったという報道がありました。政府はコロナウイルスの分類を現在の「2類」から「5類」に変えることを考えているようですが、重症化が少ないなら、日本でも感染者数に一喜一憂しない状況を早くつくるべきではないでしょうか。



街角景気

2021年7月	48.0
8月	34.9
9月	42.3
10月	55.1
11月	56.8
12月	57.5
2022年1月	37.9
2月	37.7
3月	47.8
4月	50.4
5月	54.0
6月	52.9
7月	43.8

（出所）内閣府

「諏訪の景気動向」についてのご意見、ご要望は
諏訪信用金庫 総務部へ
電話 0266-23-4567